

令和 7 年度第 1 回廃棄物減量等推進審議会（会議概要）

令和 7 年 8 月 20 日（水）
鶴岡市ごみ焼却施設研修室

（午後 2 時 7 分）

1. 開会

2. 委嘱状交付

交代などに伴う新規委員 5 名に委嘱状を交付。

任期は、令和 8 年 8 月 23 日まで。

（審議会成立）

委員 19 名のうち現在 16 名が出席で委員の半数以上が出席しており、鶴岡市廃棄物減量等推進審議会条例第 6 条第 2 項の規定により会議開催が成立。

3. 委員並びに事務局自己紹介

4. 会長選任

不在となっている会長の選出について、委員に伺ったところ事務局に一任との声があったため、事務局案として佐藤司委員に会長をお願いする旨を提示し、承認を得る。

5. 会長挨拶

6. 議事

鶴岡市廃棄物減量等推進審議会条例第 6 条第 1 項により、会議の議長を会長とする。

（1）令和 6 年度鶴岡市一般廃棄物処理の実績について

（2）令和 7 年度鶴岡市一般廃棄物行政の事務執行について

資料に基づき事務局説明

〈質疑応答〉

【委員】

1 人 1 日あたりのごみの排出量の推移について、鶴岡市の 1 人 1 日あたりの排出量が国や県より多いのはなぜですか。

【事務局】

鶴岡市の家庭から排出されるごみについては、9 割がもやすごみ、いわゆる茶色の袋です。もやすごみの組成分析を行ったところ、3 割ほどがプラスチックなどの本来桃色の袋に入るものや、包装類、古紙類、食品等でした。

分析を通して、再生できるものが3割ほど入っている、考え方を変えるとまだ3割減らせるという結果です。当課としても分別をすることで再利用、再資源化が促進されるため、そのような取り組みを行っていきたいと考えております。

【委員】

私は県外出身ですが、鶴岡市も分別はそう変わらないかなという印象を持っています。この説明ですと鶴岡市のごみの分別の仕方が甘いというような印象を受けますが、それだけではないと思ひまして。例えば、農業が盛んな県なため、それらに関するものを多く捨てているから多いということはないですか。

【事務局】

まず全国との比較で、何が原因かというところはだせないのですが、もやすごみが9割ということですので、入っているものが何かということになると思います。推測になりますが、メロンや枝豆などの農作物や食文化といったところで生ごみの重さが、組成分析の中でも比重を占めています。そのため、他のところよりは多いのではないかと考えております。

また、県との比較においては、ごみ処理において唯一県内の中で処理の有料化を行っていないのが庄内地区です。そのため、県との比較でも1人あたりのごみの量が多いのかと思われます。そして貝類などの海による食文化も影響していると考えております。

【委員】

ごみゼロ大作戦に関連して海辺のごみについて、冬になると荒れてごみが多くなる。担当課からはごみを回収しても財源がなくて処分ができないと言われまして、なにか良い方法や対策があればお願いしたいです。

【事務局】

海岸や漁港、海水浴場などそれぞれで管轄が違ってありますが、当課ではクリーン作戦を通していろいろなボランティアの方がごみを集める機会を設けております。取り組んでいただく方に対してごみ袋を提供して、集めたごみを回収しております。

大きなごみや粗大ごみは、その土地の管理者にお願いする形になり、その際は、例えば県の管理区域であれば県に対し、また、市の漁港区域であれば、市の所管課に当課から依頼するなどしており、対応については、予算の関係ですぐには難しい場合など、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、当課では、担当につながるような役割を担っていきたいと考えております。

【委員】

今まさにおっしゃられたように、海岸のごみは大きくて、流木までは言わないですけれども、車の部品なども落ちています。そのため、袋に入るように刻む作業が増えています。

【委員】

貴重なご意見が出ましたので、ほかの委員の皆さまからも共有していただき、行政と密な関係をとってもらえればと思います。

(3) 次期一般廃棄物処理基本計画の（骨子案）について

資料に基づき事務局説明

〈質疑応答〉

【委員】

ごみ分別リサイクルに関する回答について、分析によりますと70%以上がごみ問題に関心を持っていると。単純にこの数字は、回答者の回答ですので、これはこれでよいのですが、回答したのが約半数で、回答しなかった半数は無関心という解釈をするとこの数字はかなり変わってくると思うのです。最悪の数字を考えたときにアンケートの結果も変わってくるのかなという感じがしますので、内部でそのあたりも検討してください。

【事務局】

おっしゃる通りかと思います。半数の方は回答がなかったということですので、関心のない方にも届くような情報発信の仕方、やり方等を考えていかなければいけないかと思っております。

【委員】

今の説明で、実際の情報提供とか、ごみ減量化に対する情報提供が少ないというアンケート結果が出ておりますけれども、それに対して何か施策や、これからどう改善していくかという具体的な計画などがありますでしょうか。

【事務局】

様々な年代層に向けて届くようにということで、SNSの方はだいぶ強化しているのですが、紙媒体についても昨年からはありますが、定期的にコミセンだよりの記事の掲載依頼を行っているところです。今年度以降もさらに多くの依頼をして、地域の皆さんに紙媒体でもご覧いただけるような情報提供をしていきたいと考えております。また、LINEやSNSでの発信についても、引続き写真やイラストなど、文章だけでなく伝わりやすいような内容を考えていきたいと思っております。

【委員】

今年の春にスプレー缶の分別方法が変わりましたが。その周知がなかなかされなかったみたいで、自分の地区では、近所のごみステーションにそのスプレー缶のごみは何週にもわたって放置されていきました。何週目かで本人が気づいたのか、それとも周りに言われたのか、そのうちに出さなくなっただけなのですが、そういう変更した場合とかの周知がなかなか甘いのではないかと思います。そのようなこともあって周知して一回で皆さんの耳に届くように進めていただきたいと思います。

【事務局】

分別方法を変更した際の周知は、大変難しいと実感しております。当課では、町内会等に対し、変更内容が記載されているパネルをごみステーションに張り出せる

よう、要望があった町内会に提供しております。また、先ほど説明したとおり、広報やコミセンだよりなどに入れたりしておりますが、見ていただけるかどうかもありますので、人伝いが一番効果的かと思っております。そのためには、市内に390名ほどいます環境保全推進員や皆様方からのご協力をいただきながら進めたいと思っております。

【委員】

分別方法の変更を市民の皆さんに周知するのは難しいものだと感じました。いろいろなルートで周知していく必要があると考えます。ここにいらっしゃる皆さんの啓発というのも非常に大事だと思います。

【委員】

周知については、広報やコミセンだよりなど、大きく張り出したとしてもあまり伝わらないと思うのです。SNSも若い人は見ると思いますが、お年寄りの方の目につく機会は少ない。考えるに一番効果的なのは、ごみステーションに直接貼るとか、そのような方法ですと毎日ごみを捨てに来た時に毎回見ることになるので、直接的に伝わるのではないかと思います。

分別方法に関しても、ごみの分け方・出し方ガイドブックやごみだしカレンダー、広報、チラシなど、知ろうとすれば方法はあると思うのですが、関心がない人がまだいます。もっとインパクトのあるような提示の仕方考えた方が良いのではないかと思います。

【事務局】

参考にさせていただきたいと思います。

【委員】

先ほどの方がおっしゃったようにごみステーションに貼るのが一番よいかと思えます。そういった変更内容を張り出すのもそうですけれども、2020年にゼロカーボンシティ宣言を行っていますが、市民に周知ができていないのではないかと。その中にいろいろな問題解決の方法もあるのでしょうけれど、そういったことにも取り組んでいるんだということも含めて、ごみステーションなど目につくようなところに張り出して、意識変革に持っていくということを考えてもいいのかなと感じましたので、ご意見として示させていただきます。

【事務局】

ゼロカーボンシティ宣言も当課で進めているところでございますので、大変参考になる意見をいただけたと思います。

7. その他

特になし

8. 閉会